

## 【イベントレポート】

## 「Budweiser×CreativeDrugStore イベント」6月1日（土）開催

昼の部は渋谷 稲荷橋広場にバドワイザーゼロピアスタンドが登場！CDSによる無料配布では大行列が！

夜の部は代官山 SPACE ODD にて1夜限定パフォーマンスを実施、BudweiserとCDSの世界観を肌で感じる1日に



プレミアムラガービールブランド「バドワイザー」を展開する、エービーインbev ジャパン合同会社（AB InBev Japan 合同会社、東京都渋谷区）は、日本のヒップホップシーンで活躍するクリエイティブ集団 CreativeDrugStore（以下本文内CDS）と初のタッグを組み、限定キャンペーン「Now Is Yours to Take ~ハジけろサイノウ~」を4月1日より実施しています。このコラボレーションを記念し、6月1日（土）の1日限定で、キャンペーンの世界観を体感できる「Budweiser×CreativeDrugStore」イベントを開催しました。本イベントは昼の部『NOW IS YOURS TO TAKE CreativeDrugStore×Budweiser』と夜の部『CREATIVE ROOM Vol.13 collaboration with Budweiser』の2部構成で行われました。

### <昼の部（『NOW IS YOURS TO TAKE CreativeDrugStore × Budweiser』）>

昼の部は、渋谷・稲荷橋広場にて、Budweiser ZERO（バドワイザーゼロ）の無料配布を実施しました。その他、キャンペーンの世界観が楽しめるフォトスポットや、フードメニュー販売などを行いました。



会場では、2022年に新しく発売された「Budweiser ZERO」のサンプリングが行われ、計400本以上が来場者に無料で配布されました。本キャンペーンのキービジュアルを背景に写真を撮ることができるフォトスポットと巨大な缶のオブジェが設置されたほか、



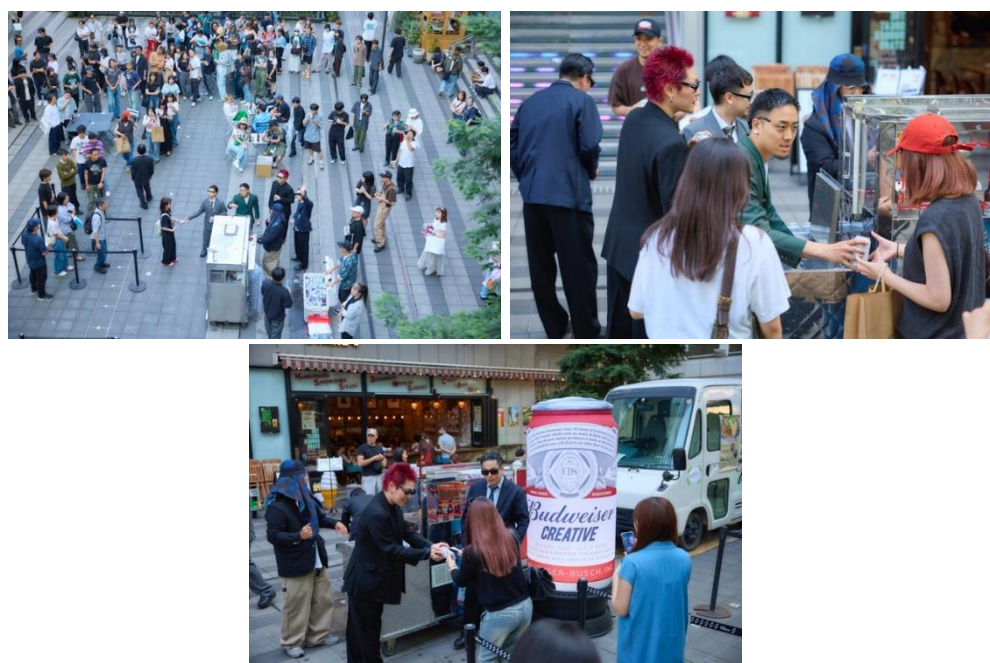
来場者全員に数量限定で、今回のコラボレーション限定のステッカーをプレゼントされ、多くの人が Budweiser ZERO を片手にイベントを楽しみました。



また会場では、CDS メンバーと親交のある「三軒茶屋カリガリマキオカリー」のキッチンカーが出店されました。3 種類のカレーライス（カリガリマキオカリー、カリガリ超スパイスマキオカリー、カリガリアいがけマキオカリー）を販売し、Budweiser ZERO と一緒にマキオカリーを楽しむ多くの人々の姿が見られました。



16 時からは CDS メンバーが登場し、来場者に向けて Budweiser ZERO を彼らが直接配布し、多くのファンと交流しながら写真撮影も行われました。CDS メンバーによる配布時間には、彼らのファンである若者を中心に幅広い層の人々が列を成しました。

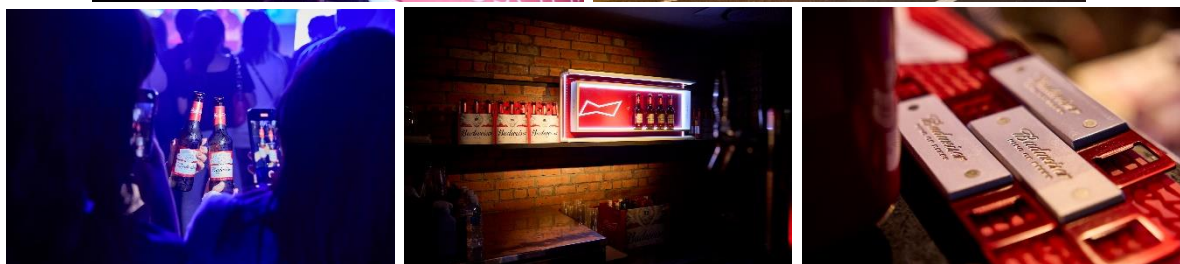
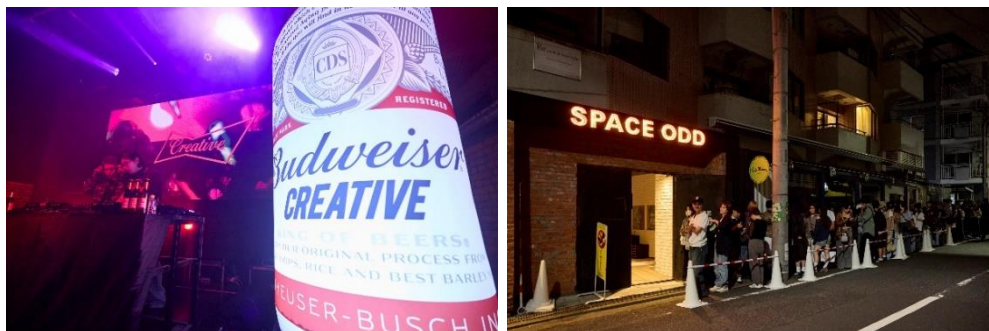






## <夜の部（『CREATIVE ROOM Vol.13 collaboration with Budweiser』）>

夜の部は、稲荷橋広場近隣のライブハウスである代官山 SPACE ODD にて、CDS メンバーとゲストによるアフターパーティーが実施されました。本イベントは前売り券、当日券共に完売となる大盛況ぶりを見せ、開場直前になると長蛇の列ができました。



本イベントには「BIM a.k.a DJ Sean Ben × iz」「MITSUISHI (dooo × MONKEY\_sequence.19 × tee·rug)」「DJ in-d × BANRI KOBAYASHI」「DJ JUBEE × Yohji Igarashi」「DJ VaVa × DJ lil soft tennis」がそれぞれ DJ として出演しました。多くの CDS ファンが会場に集まり、Budweiser を片手に音楽を堪能しました。





また、会場ではバドワイザーと CDS の限定コラボ T シャツとグラス、CDS のグッズ販売も行われました。



イベント中盤では、CDS がサプライズで歌唱パフォーマンスをし、ファンから人気の曲「Boomerang」などを披露したことで、会場はその日一番の盛り上がりを見せました。



また、本イベントの様子を CDS の X アカウントをメンションして投稿することで、コラボ T シャツとキーホルダーが当選する SNS キャンペーンでは、大変多くの応募数を集まり、SNS 上でも大きな盛り上がりを見せました。

1 日を通して、幅広い年代の方に Budweiser と Budweiser ZERO を手に取ってもらい、ブランドと CDS の世界観を肌で感じてもらうことで、キャンペーンの認知も高めることができるイベントとなりました。